

現場研修、企業(技術研究所)訪問を通じた農業農村工学系技術の理解促進
Promotion of agricultural engineering for college students through the
visit to general construction company's research facilities

大澤 祐一
OSAWA, Yuichi

どんな技術であっても、それを将来にわたって継続し発展させるためには、若い技術者の育成と確保が不可欠で、農業農村工学系の技術も若い人、つまり学生が農業農村工学を理解し、関心を持つことが出発点になる。しかしながら、多くの大学では、幅広い農業や環境分野を学ぶこととして入学し、その後に専門分野を選択するようになっており、かつてのように大学入学時に農業農村工学を学ぶ自覚を持っているケースは少ない。

このように多くの学生が、入学以降に学ぶことや経験をふまえて自らの将来方向を決めていく中、土地改良建設協会では、農業農村工学を理解し、関心を持つよう、「農業農村工学系の技術者育成、確保に向けた連携協定」を結んだ農業農村工学会と連携して、国営事業地区等をフィールド調査する大学生の支援と、同じく大学生を対象にした会員会社の技術研究所の見学会を実施しているのでご紹介する。

1. 国営事業地区等フィールド調査学生支援事業

農業農村工学の魅力は、教室で学ぶ知識や理論にもあるが、その最大の魅力は、現実に機能しているあるいは建設されつつある施設や農地などにあり、それらにふれたことが、農業農村工学を終生の仕事に選ぶことにつながったケースは多いと思われる。本事業は、多くの人々のこうした経験に着目し、農業農村工学系の学科、講座の担当教員の指導を得て国営事業地区などのフィールド調査を行い、卒業論文（修士論文も）を作成する学部学生と大学院生に対して、フィールド調査に必要な交通費、宿泊費と物品費を 10 万円を上限に学生に直接支給している。

本事業は、平成 29 年度に試行として 6 大学の 11 名を支援し、続く平成 30 年度には、前述の連携協定を結んだ農業農村工学会と共に、公募方式により本格的に実施し、北は北海道から南は沖縄まで、全国の 16 大学の 24 名を支援した。この 24 名の進路をみると、県庁 4 名、建設業 4 名、設計コンサルタント 3 名、大学院 11 名などとなっており、多くの学生が農業農村工学と関わりのある世界で活躍していることがうかがえる。

平成 30 年度の 16 大学：

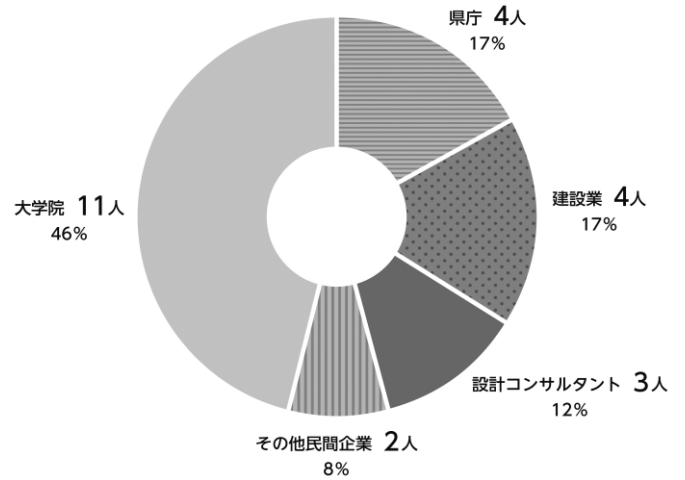
北海道大学、弘前大学、東京大学、東京農工大学、新潟大学、
石川県立大学、岐阜大学、三重大学、京都大学、鳥取大学、島根大学、愛媛大学、高知大学、九州大学、佐賀大学、琉球大学

一般社団法人土地改良建設協会

Land Improvement Construction Association



フィールド調査の状況



平成 30 年度の支援学生 24 名の進路先

2. 農業農村工学系の大学生のための技術研究所の見学会

1. の学生支援事業は、すでに農業農村工学を学んでいる学生を対象にしているが、その前のまだ学ぶ分野を決めていない大学生には、前述のとおり農業農村工学や土木学への関心が低い者も多い。したがって農業農村工学や土木学の魅力を伝えることは、学生の裾野を広げるために重要である。こうした認識のもと、当協会の会員各社の最新土木技術を学べる場を提供することを考え、平成 30 年度には、大成建設と鹿島建設の協力を得て、両社の技術研究所の見学会を実施した。

見学会では、研究所の役割や研究内容等について説明を受けて施設を見学し、そののち研究勤務者から、企業における研究の実際について詳しく話を聞く機会を設けた。学生からは、「今まで考えが及ばなかったことにも視野が広がった」、「幅広い分野について研究していることに感銘を受けた」、「後輩にも勧めたい」、「自分の研究が社会に役立っているかを考える機会になった」などの声が寄せられている。

3. 今後の課題

2つの取組をする中で、工夫の必要を感じるのは、学生への情報提供などを行う方法（アクセス方法）である。情報化が進む中、良いタイミングで良い情報を効果的に伝える方法を、学生側の情報環境も考慮しつつ検討したいと考えている。



大成建設技術センターにてご説明いただいた方と



鹿島技術研究所で副所長から話をうかがう